

事業名	富士山学習等推進費			調査番号	13
細事業名	環境講座開催費	財務コード	433209		
担当部課室	県民生活 部 私学・科学振興 課 科学技術 担当 (内線)				

事業の概要

実施期間	始期 H9 年度 ~ 終期 年度	
実施主体	県(直営)	
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして
	一般県民	環境講座への参加を通じて、自然の仕組みや環境問題を学習・理解している
結果、何に結びつけるのか		
自然や環境を意識した日常生活の実践		
内容	・富士山科学講座：研究者等が富士山を科学的な知見に基づき講義する講座 ・環境観察講座：地域の自然環境を新たな視点で観察する講座 ・環境体験講座：身の回りの環境に関わる事象を題材として、実験・実習を通して体験的に環境を学ぶ講座	

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
活動指標	環境講座実施回数	目標	20	21	22	22	22	18	18
		実績(見込)	20	21	22	22	22	18	
		達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
		達成区分	b	b	b	b	b		
成果指標	環境講座参加者数	目標	550	550	600	600	700	600	
		実績(見込)	543	572	574	688	546	600	
		達成率	98.7	104.0	95.7	114.7	78.0		
		達成区分	b	b	b	b	c		
決算(予算) 単位:千円		416	351	393	474	431	512	525	

事業の評価(平成27年度の業績評価)

活動指標	b	評価	参加者の関心の高い講座内容への見直しや広報活動の改善等により、参加者数が毎年定員(目標)の概ね8割以上を確保できており、概ね意図した成果を上げている。
成果指標	b		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	必要性が高い ✓ 必要性がある程度認められ 必要性が低い		
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(次のとおり))		
有効性(成果向上)	判定	大幅な成果向上が可能 ✓ 成果向上が可能 成果向上は余り望めない		
	説明	参加者のニーズを踏まえ、プログラム内容を充実させていくことで、成果向上は可能である。		
見直しの余地	判定	見直す余地がある ✓ 見直す余地がある程度 見直す余地がない		
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他())		
その他	説明	「親子森を楽しむ会」や「親子自然観察会」などの環境講座の新設や実施回数見直しを行うなかで、各研究部との連携を図り、参加者のニーズを踏まえた教育事業を実施していく。		
見直しの必要性	有	参加者の多様化を図るため、親子を対象とした事業や、個々の関心を踏まえた講座を提供するなど講座内容の充実・改善等を行う必要がある。		

見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	より若い世代や親子、興味を持って富士山について学が参加者のニーズを踏まえ、各環境講座の実施回数、時期、内容等を検討し、次年度に向けた講座の充実・改善を図る。
----------	----	--

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。